

伊 良 部 の 鳥

Birds in the Irabu Area, West of Miyako Island, the Ryukyu Archipelago

久 貝 勝 盛 (沖縄県立伊良部高等学校)

伊良部の鳥に関しては久貝、山本 (1981)、久貝 (1990) 等があり、これまでに154種を報告している。今回、宮古野鳥の会の調査資料と筆者が1995年1月から1997年4月にかけて調査したデータを基に伊良部の鳥類相についてまとめた。なお、新たに記録された種類については*を付した。

伊良部の自然概観

九州から台湾までの約1,300Kmの間に点在する島々を琉球列島という。黒潮が東側を通り、西側は対馬海流が東シナ海を北上する温暖な列島である。

その中で台湾寄りに位置しているのが先島諸島で、八重山諸島と宮古諸島からなる。伊良部は宮古本島の西、約8Kmの所にあり、伊良部島と下地島の2島からなる(図1)。伊良部島は面積が30.49km²で、ほぼ楕円形をしており、最高点は牧山の88.8mで平坦な島である。下地島も平坦な島で面積が9.65km²、最高点は21.7mである。

伊良部は新生代第四紀(数10万年前)に形成された琉球石灰岩に覆われている。第4紀更新世の琉球石灰岩の層は30~80mもある。琉球石灰岩の下には第三紀鮮新世(数百万年前)に堆積した島尻層群と呼ばれる地層がある。

海岸線は複雑に入り組んでおり、琉球石灰岩特有の鋭い凹凸や下地島の通り池に見られるような直下型の洞穴がある。

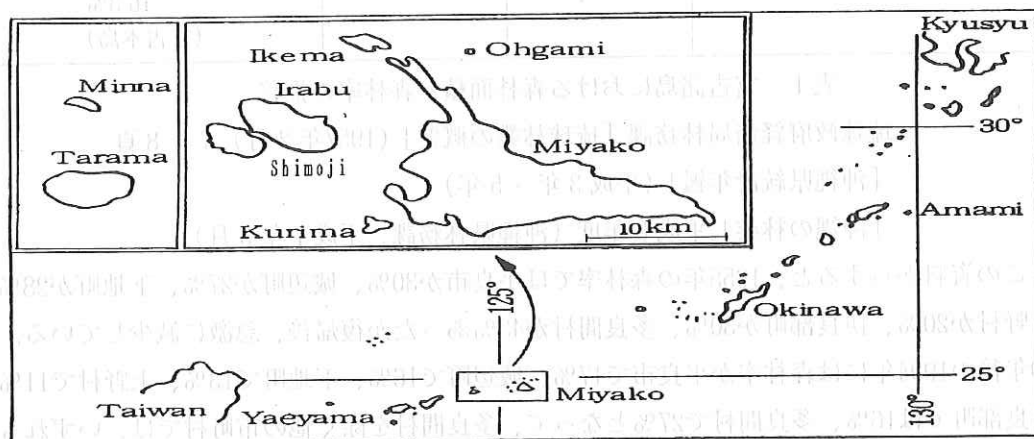


図1 The map showing the Miyako Islands.

気象台の資料から伊良部の気象状況を見てみると年平均気温23.1℃、年平均湿度80%、年間降水量2,247.1mm、降水日数148日（1mm以上）になっている。

次に伊良部の植生について簡単に紹介したい。伊良部の北海岸は冬の厳しい季節風と潮風の影響を強く受ける。そのため、ここでは比較的、風に強いオキナワシャリンバイ、ガジュマル、グミモドキ、テンノウメ等の発達が見られる。隆起珊瑚礁の岩礁地帯ではイソフサギ、イソマツ、クサトベラ、オオハマボウ、アダン等が見られる。砂浜ではグンバイヒルガオ、ハマゴウ、スナズル、クサトベラ、ツキイゲ等が見られる。国仲入り江のマングローブ林ではヤエヤマヒルギやメヒルギ等を見る事が出来る。

内陸部では、ほとんどが耕作地として利用されサトウキビ畑やカボチャ畑になっている。全体的には緑は少なくなっているが国仲御嶽のような拝所では、いくらか自然が残されている。ここではタブノキが優占し、センダン、オオバギ、モクタチバナ、ハマイヌビワ等が見られる。

近年、伊良部でも道路拡張工事や施設等の建設、畑の基盤整備等で緑の減少が著しい。ちなみに宮古諸島の森林減少率は以下の通りである（表1）。

1955年（40年前）		1961年（32年前）	1970年	1994年（平成6）	
面積	森林率	面積	面積	面積	
平良市	1,926ha 30%	1,497ha	—	1,079ha	17%
城辺町	1,164ha 27%	1,843ha	—	911ha	16%
下地町	594ha 28%	545ha	—	298ha	13%
上野村	320ha 20%	585ha	—	212ha	11%
伊良部村	1,104ha 30%	2,849ha	—	635ha	16%
多良間村	890ha 43%	473ha	—	535ha	27%
合計	5,998ha 30%	7,792ha	7,855ha (宮古郡)	3,690ha	16.3% (宮古郡) 16.3% (宮古本島)

表1 宮古諸島における森林面積と森林率の推移

琉球政府経済局林務課「琉球林業の概要」（1957年2月）7～8頁

「沖縄県統計年鑑」（平成3年～5年）

「沖縄の林業」平成6年度（沖縄県林務課、平成7年3月）

この資料からすると、1955年の森林率では平良市が30%、城辺町が27%、下地町が28%、上野村が20%、伊良部町が30%、多良間村が43%あったが復帰後、急激に減少している。39年後の1994年には森林率が平良市で17%、城辺町で16%、下地町で13%、上野村で11%、伊良部町では16%、多良間村で27%となって、多良間村を除く他の市町村では、いずれも20%を割ってしまった。

1994年時点で宮古諸島全体の森林率は16.3%、県全体では47%、全国では67%で宮古諸島の森林率がいかに低いかわかる。

一方、1961年から1994年までの各市町村別の森林増減率は平良市で27%減、城辺町で51%減、下地町で54%減、上野村で64%減、伊良部町で78%減、多良間村で13%増になっている(1996、仲間)。

これからすると多良間村を除く市町村の緑がいかに大きく減少しているかわかる。特に伊良部町の減少率は著しい。これは多分に復帰後の下地島パイロット訓練飛行場建設に伴うものだろうと考えられる。この事は、特にサシバの渡りにとっても大きな打撃になる。

仲間(1996)によれば1950年代から1970年代にかけては森林面積は全体的に増加傾向にあり、復帰後は復帰前の約半分に減っているという。また、一般的に自然、生態、人間を含めた適正規模の考え方からすると森林率が30%を割ると森林のレイアウトにもよるが、人間の生活感性や生物相にも大きな影響が現れてくるという。伊良部の緑が16%まで減少しているという事は、それなりに、どこかでそのツケが現れてくる可能性がある。例えば害虫の異常発生、地下への水の浸透能力の低下等、伊良部の生物生態系への影響が懸念される。

伊良部のこれからの大きな課題の一つはいかにして水源涵養林、防風・防潮林を含む緑を増やし開発と自然保護を調和させるのかという事だろう。

伊良部の鳥相

宮古島から約8 Km離れた伊良部は海岸線が複雑に入り組んで野鳥の好む独特な形を作っている。ここでは、春と秋の渡りの時期には、コゲンカンドリ、ハジロクロハラアジサシ、クロハラアジサシ、ヤツガシラ、ムギマキ、オオルリ、サメビタキ、センダイムシクイ、オオジュリン、カラムクドリ、ホシムクドリ、アナドリ、タゲリ、セイタカシギ、コシヤクシギ、サンカノゴイ、アカガシラサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ハイイロガン、アカツクシガモ、コウノトリ、トビ、チゴハヤブサ、ハチクマ等の思わぬ珍鳥に出会う。佐和田の塩田跡地の湿地帯では時々サンカノゴイも見られたが、湿地帯が畑に変身してしまつて大型の水鳥を見なくなった。

以前は宮古諸島のあちこちで見られたハシブトガラスも、農薬の大量使用と緑の大幅な減少にともなつて次々と姿を消し、今ではこの伊良部だけに生息している。その数はだいたい180~200羽くらいである。

10月に大群で飛来する秋の風物詩サシバも大半がこの伊良部島で羽を休める。その他、旅鳥としてアカヒゲ、アカハラダカ、ハチクマ、ツミ、ノスリ、ハヤブサ、ミサゴ、チョ

ウゲンボウ等のワシタカ類、アカアシシギ、アオアシシギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、ムナグロ、ダイゼン、メダイチドリ、オオメダイチドリ等のシギ、チドリ類、ヨシゴイ、アマサギ等が見られる。冬鳥としてシマアジ、コガモ、ヒドリガモ、カルガモ等のカモ類、コサギ、チュウサギ、ダイダギ、アオサギ、ムラサキサギ等の大型サギが見られる。山野ではシロハラ、アカハラ、ウグイス等が見られる。1996年10月から1997年4月までの調査で特筆すべき事は例年に比べてシロハラとウグイスが多かったという事である。1996年11月20日朝10時頃、佐和田の入り江から海岸沿いに下地島空港までの約500メートルを歩く間に何と25羽のシロハラと15羽のウグイスを観察した。また、1996年10月から1997年3月にかけて伊良部高等学校の窓ガラスにぶつかって保護されたシロハラは7羽、ウグイスは6羽であった。ちなみに1995年には全くという程観察されていない。夏鳥としてサンコウチョウ、アカショウビン、リュウキュウコノハズク、アオバズク等が見られる。

留鳥としてスズメ、ハシブトガラス、ミフウズラ、セッカ、リュウキュウヨシゴイ、クロサギ、メジロ、ヒヨドリ、ヒクイナ、バン、シロハラクイナ、キンバト等がある。シロハラクイナは宮古諸島では伊良部島のみで繁殖している面白いクイナの仲間である。またキンバトは、これまで八重山諸島を分布の北限にしていたが近年宮古諸島のあちこちで記録されるようになった。自然分布なのか、人為的な分布なのか定かでないが、大変興味深い現象である。ミフウズラは奄美大島以南に見られる南西諸島の固有種であるが移入動物であるホンドリタチの影響が大変懸念される。ホンドリタチは1966年から1968年にかけて宮古島、池間島、伊良部島、来間島、多良間島の各島に合計1,867頭がネズミ等を駆除する目的で導入された。しかし本種は肉食獣で他の小型動物も捕食する。特に伊良部では年々その数を増やし、伊良部在来のヘビ類やトカゲ類をほぼ全滅状態にしているからである。

これまでの調査資料と1995年～1997年4月までの約2年にまたがる調査で41科168種類を記録した。その内訳は留鳥17種、渡り鳥151種（夏鳥12種、冬鳥34種、旅鳥74種、迷鳥31種）である。水鳥と山野の鳥の比率は95：73で約1.3：1である。これからすると、宮古諸島では何処も同じであるが、水鳥をメインにした渡り鳥主体の鳥相である。また、島の面積の割には数多くの鳥が記録されている。それは地理的にいい位置にあって中継地に最適であるという事を意味する。

分布的に興味深い鳥類の記録

サンカノゴイ（サギ科）*Botaurus stellaris*

本州中部以北で繁殖し関東以南で越冬する。10年程前までは冬鳥として時々、佐和田の塩田跡地の湿地帯に飛来していたが、いつのまにかその湿地帯が畑に変身してしまっ

て淡水性の水鳥がほとんど見られなくなった。全体が薄い黄褐色で体中に黄色の模様が点在する。外敵が近づくと、嘴や首をのばして静止する。主な食べ物は魚類や両生類である。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは希少種。

クロツラヘラサギ (トキ科) *Platalea minor*

アジア大陸東部の1部に生息する特産種。個体数は非常に少なく1995年に越冬地で確認されたのは450羽程だという。現在の繁殖地は朝鮮半島の無人島の他はわかっていない。越冬地は台湾、韓国、日本等わずかである。宮古では1995年12月頃から1996年5月頃まで下地町の与那覇湾で3羽が観察された。伊良部では1996年12月17日に1羽が観察された(琉球新報1996、12、17)。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは希少種。

ヘラサギ (トキ科) *Platalea leucorodia*

ユーラシア大陸の中央部に生息する。日本には希な冬鳥として水田、湿地、湖沼等に渡来する。沖縄では迷鳥。伊良部では1976年12月10日の佐和田の入り江で記録された。全長約86cm。しゃもじ形の長い嘴を持ち首や脚が長い。体は白色で夏羽になると後頭部に橙黄色の冠羽がでる。餌をとるときは嘴を垂直に入れ開閉させながら弧状に動かすという。

キンバト (ハト科) *Chalcophaps indica*

背と雨覆が金緑色で風切りが黒い。雄は頭が青灰色で額が白い。雌は全体的に色が淡い。国仲御嶽のようなよく茂った林を好む。宮古諸島のキンバトは自然分布なのか人為的分布なのか定かでないが、現在のところ宮古諸島が分布の北限である。国指定天然記念物。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは共に絶滅危惧種。国内希少種。

タゲリ (チドリ科) *Vanellus vanellus*

ユーラシア大陸の中、北部で繁殖し、日本に渡る冬鳥。本土では百羽を越す群れをつくるが沖縄への飛来は少ない。大きく頭上に伸びた冠羽が特徴。緑と黒の光沢のある体色も人目を引く。1996年12月21日、上野村でも観察された。

キレンジャク (レンジャク科) *Bombycilla garrulus*

1997年2月、長野県で66羽が落下死したことで注目をあつめた。レンジャク類は世界

で3種類。そのうちヒレンジャクとキレンジャクの2種類が冬鳥として日本にやってくる。宮古でも旅鳥として春秋の渡りの時期に見られるがきわめて数が少ない。伊良部では1996年12月11日に記録された。ヒレンジャクとキレンジャクは似ているが尾羽の先端部が赤色か黄色かで区別できる。また、キレンジャクの羽には2ヶ所に白斑がでる。

アカガシラサギ (サギ科) *Ardeola bacchus*

中国南部で繁殖し、冬期にはインドシナ半島あたりへ移動する。夏羽では頭と首が赤みがかかる。背中が灰色である。冬羽は頭と首に黄褐色の縦斑が点在する。背中が暗灰褐色。嘴の先端部は黒色で基部は黄色。水田、沼、草地等で両生類、魚類等を採る。県内では迷鳥である。伊良部では冬羽が1980年10月18日に記録された。

ムラサキサギ (サギ科) *Ardea purpurea*

西表以南に繁殖する留鳥。県内では主に渡りの時期に見られるが数はきわめて少ない。顔から首にかけて黒い線がでる。後頭に冠羽がある。胸やわきに栗色の飾り羽をもつ。嘴と脚は黄色味がかかる。水田、湿地、池沼等でよく見られる。伊良部では湿地帯がなくなって、近年、姿を見かけない。県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは希急種。

ハイイロガン (ガンカモ科) *Anser anser*

ユーラシア大陸に分布する大形のガンで体は灰褐色。腹部には不規則な横の黒斑がでる。下面はやや淡い。飛ぶと上面の雨おいの灰色と風切羽の黒褐色のコントラストがはっきりでる。嘴と脚は淡紅色である。目の周囲に橙黄色の輪がある。太く低い声でグエン、グエンと鳴く。水田、湖沼、河川等に生息する。県内では迷鳥である。

コウノトリ (コウノトリ科) *Ciconia ciconia*

太くて長い嘴をもった大きな水辺の鳥。体は白く羽の先端部が黒い。嘴が黒く、脚は淡紅色。以前は兵庫県と福井県で繁殖していたが現在は大陸から1羽か2羽渡来するだけになってしまった。伊良部では1979年12月28日に記録された。環境庁、県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは絶滅危惧種。国指定特別天然記念物。

コグンカンドリ (グンカンドリ科) *Fregata ariel*

亜熱帯から熱帯地域にかけて分布し世界で5種類いるが、日本にはオオグンカンドリとコグンカンドリの2種が迷行してくる。雄の成鳥は体全身が黒く背面に白斑がでる。

のどは赤い。腹部は白色。宮古にも時々迷行してくる。
オオグンカンドリ（グンカンドリ科）*Fregata minor*

日本でも迷鳥中の迷鳥とされる。雄はのどの赤色を除いて全体が黒色である。雌はのど、腹部が白く、その他は黒色である。伊良部では1990年9月に記録された。
レンカク（レンカク科）*Hydrophasianus chirurgus*

熱帯圏に分布し世界で7種類いるが日本にはそのうちの1種類が迷行してくる。嘴は細く脚の指は非常に長い。翼の先は細くとがっている。夏羽では顔と首が白くなる。尾羽は長くて黒い。冬羽は全体的に色がくすんでくる。尾羽も短くなる。宮古には東南アジアから迷行してくる。

チゴハヤブサ（ハヤブサ科）*Falco subbuteo*

地上近くを低く速く飛び、驚いて逃げまどう小鳥類を捕らえる。飛び方は直線的で羽ばたきとグライデングを交える。北海道、本州北部で繁殖し林や農耕地、草地などで生活する。渡りの時期に本州以南にも移動する。伊良部で最初に渡ってくるハヤブサ科の鳥である。見られる年と見られない年がある。

アカツシガモ（ガンカモ科）*Tadorna ferruginea*

希な迷鳥で池沼、水田、河川、干潟等で生活する。全体的に淡い赤褐色で翼の先端部が黒い。飛んだときに翼に白と黒のコントラストがでる。尾羽、嘴、脚は黒色。雄は首に黒色の細い輪がでる。伊良部では1981年12月11日雌雄のペアで2羽記録された。

リュウキュウヨシゴイ（サギ科）*Ixobrychus cinnamomenus*

奄美大島以南に留鳥としてすみし、水田、湿地、アシ原等を生活の場所とする。全長約40 cm。雄は上面が赤褐色で、下面には1本の黒い縦線が出る。雌の上面は暗赤褐色で黄白色の斑点がある。のどから胸にかけてバフ色の斑紋が数本でる。伊良部では湿地帯の消滅でほとんど見られなくなった。県の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーでは希少種。

ヤツガシラ（ヤツガシラ科）*Upupa epops*

ヤツガシラの仲間は世界で1種。ユーラシア中南部、アフリカ、マダガスカル等に分布する。宮古では主に春の渡りの時に見られる迷鳥。昆虫類、トカゲ等を食べる。興奮

すると冠羽をたてる。嘴は細長く下に曲がっている。脚は黒い。飛ぶとあざやかな白と黒の模様がでる。伊良部ではほぼ毎年のように2月から3月にかけて見られる。

ハジロクロハラアジサシ (カモメ科) *Sterna leucoptera*

春秋の渡りの時期に時々、宮古諸島にも姿を見せる迷鳥。秋の渡り時に見られることが多い。個体数は少ない。沼、湿地帯、干潟等で生活する。夏羽は頭から胸にかけて黒色。嘴と脚は暗赤色。冬羽は全体が白っぽくなる。宮古諸島ではほとんど冬羽が見られる。

コムドリ (ムクドリ科) *Sturnus philippensis*

日本には夏鳥として渡来し本州中部以北の山地の林で繁殖する。宮古諸島では春秋の渡りの時に50~100羽の群れで見られる旅鳥。サシバの渡るおよそ1ヶ月前に見られるので地元では「タカぬピャーつかい」(タカの便りを早く伝える使者)として知られる。

カラムドリ (ムクドリ科) *Sturnus sinensis*

迷鳥として宮古諸島でも時々見られる。1981年9月15日に平良市で50羽の群れが確認された。開けた農耕地、市街地、人家周辺の林や電線でコムドリの群れに混じって見られる。個体数は少ない。全体が灰色がかった白色で尾羽と翼の先端部が黒い。目は白色。餌は地上でとるが木の実も食する。

クロツグミ (ヒタキ科) *Turdus cardis*

夏鳥として九州以北の山地、落葉広葉樹林で繁殖する。宮古諸島には渡りの時にまれに見られる迷鳥。昆虫類やミミズなどを主食にする。雄は顔から胸、背、翼、尾にかけて黒色。腹部は白色で三角形で黒色斑がでる。雌は全体的に暗褐色である。伊良部では1981年に記録された。

アカヒゲ (ヒタキ科) *Erithacus komadori*

琉球列島の特産種である。男女群島や奄美諸島以南に分布する。雄は全体的に赤褐色でのが黒い。雌はのがの黒さがぬける。沖縄本島と慶良間諸島で見られるのは別亜種のホントウアカヒゲ、宮古諸島や八重山諸島で見られるのは別亜種のウスアカヒゲであるという。違いは脇に黒斑がでるかでないかによる。黒斑が出るとホントウアカヒゲである。宮古諸島では春秋の渡り時に見られる。環境庁の絶滅の恐れのある野生生物のカテゴリーでは希少種、沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種。

アナドリ (ミズナギドリ科) *Bulweria bulwerii*

大西洋と太平洋の熱帯、亜熱帯海域に生息し、日本では小笠原諸島、硫黄列島で繁殖する。沖縄では迷鳥である。全体的に黒褐色で尾はくさび型。嘴は黒色で脚は暗桃色。伊良部では1991年10月20日に記録された。

ハリオアマツバメ (アマツバメ科) *Hirundapus caudacuta*

夏鳥として北海道や本州の山地の広葉樹林、針葉樹林に渡来する。宮古諸島ではその渡りの時に見られるが、個体数はきわめて少ない。旅鳥。全体的に黒褐色で嘴のつけ根、のど、尾羽のつけ根あたりは白色。スピードのある力強い飛び方をする。空中で餌をとる。鎌状に開く翼が特徴。

クロアジアホウドリ (アホウドリ科) *Diomedea nigripes*

北太平洋に生息し鳥島や小笠原諸島で繁殖する。体長81 cm。翼を広げると2メートルを越す大型の海鳥。全体が暗褐色で額と尾羽のつけ根あたりが白色。嘴と脚は灰褐色。伊良部では1990年9月に記録された。

アカハラダカ (ワシタカ科) *Accipiter soloensis*

アカハラダカは日本では繁殖せず、朝鮮半島や中国東北部で繁殖し、秋にマレー諸島、フィリピン諸島、ニューギニアなどに渡るといわれている。日本ではこれまで記録が少なく迷鳥として扱われてきた。ところが、1980年9月に宮古島の大野山林で少数のアカハラダカの渡りが記録され、その後の調査で毎年9月10日前後2週間、サシバとほぼ同

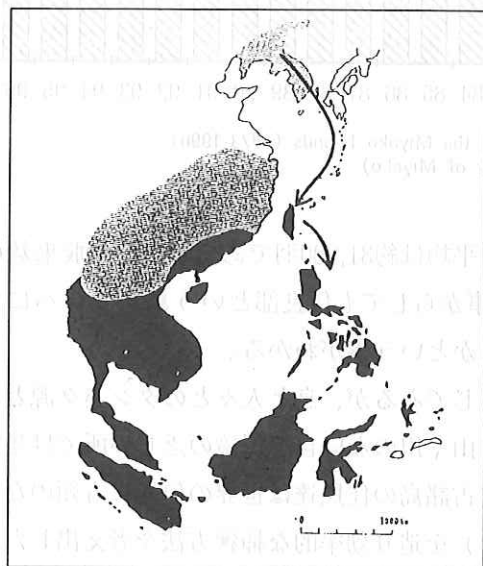



図 2

Breeding and Non-Breeding Distribution of
Accipiter soloensis and migration route.
(Handbook of the Birds of the world
Vol. 2, 1994, modified)

 Breeding

 Non-Breeding

じ規模の渡りをする事がわかってきた。アカハラダカは白露の頃に渡ってくるという事で白露のタカ渡りとも呼ばれている。

現在、アカハラダカは繁殖地の朝鮮半島から、九州の西海岸を通り、奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島等を経由して東南アジアに渡るもの推測されている（図2）。

サシバ（ワシタカ科）*Butastur indicus*

秋を告げる渡り鳥「サシバ」は寒路の頃になると確実に、しかも、正確に沖縄諸島に姿を見せる。サシバは秋田県以南に夏鳥として渡来し、里山の丘陵地帯で繁殖する。子育てを終えたサシバは秋に又、東南アジアに渡って行く。沖縄諸島、特に宮古諸島に大群が見られるのは秋の渡りの時である。

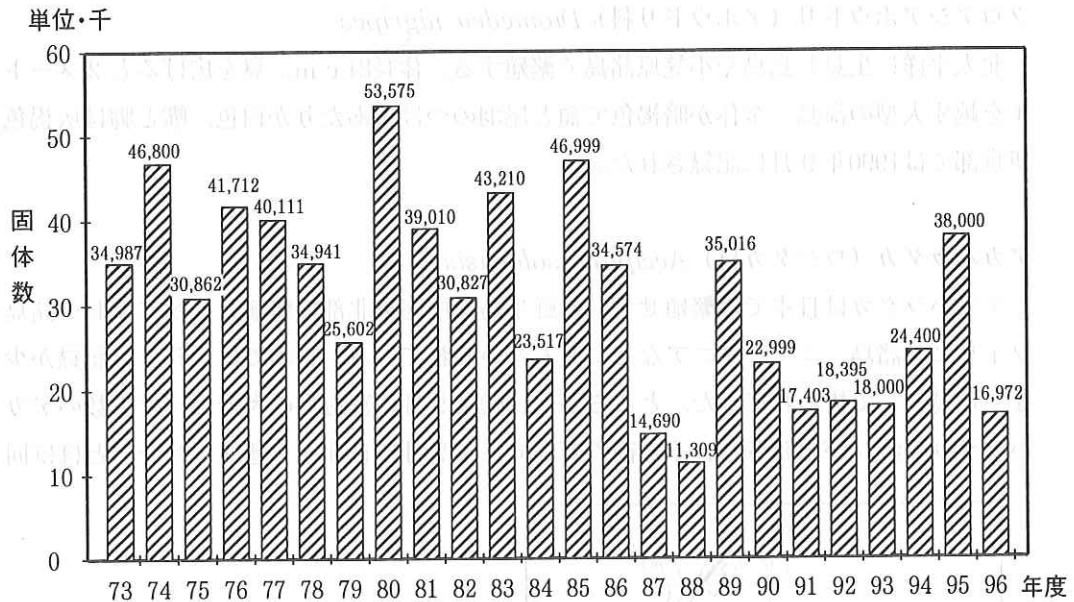


図3 Migration through the Miyako Islands (1973-1996)
(Wild Bird Society of Miyako)

宮古諸島で見られるサシバの過去24年間の平均は約31,000羽であるが、その飛来数の約90%は伊良部への飛来である（図3）。この事からしても伊良部という島がサシバにとっていかに重要な渡りの中継地点になっているかという事がわかる。

渡り鳥の集団渡来地では世界各国、各地同じであるが、鳥と人々とのタンパク源としてのつながりが深い。特に、宮古諸島のように山や川のない自然環境の乏しい所では集団渡来するサシバとの結びつきは極めて強い。宮古諸島の住民達は世界の何処にも類のないような宮古諸島独特のサシバ捕獲装置（ツギヤ）を造り効率的な捕獲方法を考え出したので

ある。サシバのシーズンには島中が燃えた。大人も子供も血が騒いだ。皆、こぞってサシバ捕獲に繰りだした。サシバ捕獲は島人達の年に一度の唯一の楽しいハンテングになった。捕獲されたサシバは食糧や子供達の遊び玩具となった。市場にも売りに出された。そのシーズン中の貴重な換金動物にもなった。サシバが保護鳥に指定される以前には、ごく当たり前サシバ捕獲がなされたのである。

しかし、サシバが保護鳥に指定され、サシバ保護の機運が高まると、沖縄県環境保健部は毎年10月1日から31日をサシバ保護月間と定め、宮古市町村会、宮古野鳥の会、県鳥獣保護員、宮古警察署等の協力を得て強力な保護運動の取り組みを開始した。

以前（1930年代）、宮古諸島では、かなりの数のサシバが空を覆ったというが、近年、繁殖地の乱開発や中継地、越冬地での緑の減少、乱獲等でサシバの個体数が減少してきた。こういう現状をどうにかしなければという地域住民の心と県の政策が一つになったのである。

本年度（1997年）はサシバ保護月間がスタートして20年目になる。保護月間スタート時から係わってきた者の一人として、この20年を簡単に振り返ってみたい。

1977年から1987年にかけては、当初、上記のようにサシバが地域住民の生活の一部になっていたという背景もあって、地域にサシバ保護思想を浸透させる事は困難だった。宮古諸島のあちこちでサシバの密猟が見られた。それでも根気強く、粘り強く関係者がパトロールや講演会を実施した。下地町や伊良部町を中心に、昼は学校での講演会、夜は7時頃から9時頃までハンドマイクを使用して「サシバはネズミやバツタ類を駆除して私達人間に大きく貢献している。世界的な保護鳥であるサシバをみんなの手であたたく保護しよう」と訴えた。

1985年頃になると下地町での密猟はなくなった。伊良部町でもだんだんサシバ保護に対する認識が学校を中心にして広がっていった。

1988～1996年になると、これまでの取り組みの10年間を反省しながら「サシバは保護鳥であり、密猟すると、法律の適用を受けて検挙される」という事をマスコミや警察、教育委員会、役場等の協力を得て強力にPRした。伊良部町内の学校では環境教育の一環として「なぜ、サシバ保護なのか」を浸透させていった。それでも、長年の生活風習というのは改まらない。ほぼ毎年のようにツギヤが見つかり密猟者が横行した。

そのうちに、伊良部中学校が県の環境モデル校を引受け、自然環境問題に取り組んだ。生徒会も地域の母親の会を巻き込んで地域ぐるみのサシバ保護運動へと発展していった。1970年代に中学生だった子供達も社会人となり、サシバ保護問題に協力するようになった。

1993年（平成5年）には伊良部町教育委員会が県とタイアップして「第一回サシバは友だちフォーラム」、1994年（平成6年）には伊良部町内の4つの小、中学校を中心にして

サシバは友達推進会議が結成され「第二回サシバは友だちフォーラム」が開催された。伊良部高等学校でもサシバ保護月間にあわせてサシバ俳句展がスタートし、生徒達がサシバ保護を真剣に考えるようになった。

1995年（平成7年）、1996年（平成8年）には本土における第一番目の集団中継地の愛知県浦郡市立西浦小学校からの参加を得て、「サシバは友だちサミット（沖縄県、伊良部町、サシバは友達推進会議共催）」が開かれた。これはマスコミ等でも大々的に報道されサシバ保護思想は急速に高まった。サシバ保護を訴え続けて20年目にしてやっと地域にサシバ保護思想が定着したのである。

この取り組みは県、伊良部町、野鳥の会、警察等の関係団体が一体となって推進した全国的にも、世界的にも高い評価を受ける成功例であるといえよう。伊良部町でのサシバ保護運動はこれで一段落したと言っていい。この20周年を機に「サシバ密猟撲滅」を宣言してもいいのではないかと考える。

この運動を通して切実に痛感したのは子供達、特に低学年への環境教育がいかに大切かということである。環境教育を受けた子供達が大人になってくると確実に大きな変化が起こるという事である。

20年もの長きにわたって御尽力いただいた沖縄県自然保護課、伊良部町、宮古警察署、宮古野鳥の会、宮古支庁、県鳥獣保護員等の関係各位に深く感謝したい。

List of the Birds in the Irabu Area

伊良部島の鳥類目録

留 鳥

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

- 1 カイツブリ *Podiceps ruficollis* (沖縄県では希少種)

サギ科 ARDEIDAE

- 2 リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus* (沖縄県では希少種)
- 3 クロサギ *Egretta alba*

ミフウズラ科 TURNICIDAE

- 4 ミフウズラ *Turnix suscitator* (沖縄県では希少種)

クイナ科 RALLIDAE

- 5 オオクイナ *Rallina eurizonoides* (環境庁、沖縄県共に危急種)

6 ヒクイナ *Porzana fusca*

(別亜種のリュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopyga* も見られ沖縄県では希少種)

7 シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus*

8 バン *Gallinula choropus*

ハト科 COLUMBIDAE

9 キジバト *Streptopelia orientalis*

10 キンバト *Chalcophaps indica*

(国指定天然記念物。環境庁、沖縄県共に絶滅危惧種。国内希少種)

11 ズアカアオバト *Sphenurus formosae*

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

12 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

13 イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

14 セッカ *Cisticola juncidis*

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

15 メジロ *Zosterops japonica*

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

16 スズメ *Passer montanus*

カラス科 CORVIDAE

17 ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

夏鳥

カツオドリ科 SULIDAE

18 カツオドリ *Sula leucogaster* (沖縄県では希少種)

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

19 ツバメチドリ *Glareola maldivarum* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種)

カモメ科 LARIDAE

- 20 コアジサシ *Sterna albifrons* (環境庁、沖縄県共に希少種)
- 21 ベニアジサシ *Sterna dougallii* (環境庁、沖縄県共に希少種)
- 22 エリグロアジサシ *Sterna sumatrana* (環境庁、沖縄県共に希少種)
- 23 マミジロアジサシ *Sterna anaethetus* (沖縄県では危急種)
- 24 クロアジサシ *Anous stolidus* (沖縄県では希少種)

フクロウ科 STRIGIDAE

- 25 リュウキュウコノハズク *Otus scops elegans* (沖縄県では希少種)
- 26 アオバズク *Ninox scutulata*

カワセミ科 ALCEDINIDAE

- 27 アカショウビン *Halcyon coromanda* (1994年頃から伊良部高校で毎年繁殖)
- 28 カワセミ *Alcedo atthis* (沖縄県では希少種)

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

- 29 サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

冬 鳥

ウ科 PHALACROCORACIDAE

- 30 カワウ *Phalacrocorax carbo*
- 31 ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

サギ科 ARDEIDAE

- 32 サンカノゴイ *Botaurus stellaris* (環境庁、沖縄県共に希少種)
- 33 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*
- 34 ササゴイ *Butorides striatus*
- 35 ダイサギ *Egretta alba*
- 36 チュウサギ *Egretta intermedia* (環境庁、沖縄県共に希少種)
- 37 コサギ *Egretta garzetta*
- 38 アオサギ *Ardea cinerea*
- 39 ムラサキサギ *Ardea purpurea* (沖縄県では危急種)

ガンカモ科 ANATIDAE

- 40 オシドリ *Aix galericulata* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種)
- 41 マガモ *Anas platyrhynchos*
- 42 カルガモ *Anas poecilorhyncha*
- 43 コガモ *Anas crecca*
- 44 ヒドリガモ *Anas penelope*
- 45 オナガガモ *Anas acuta*
- 46 シマアジ *Anas querquedula*
- 47 ハシビロガモ *Anas clypeata*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 48 ミサゴ *Pandion haliaetus* (環境庁、沖縄県共に危急種)
- 49 トビ *Milvus migrans*
- 50 ツミ *Accipiter gularis* (別亜種のリュウキュウトツミ *Accipiter gularis iwasakii* も見られ沖縄県では希少種)
- 51 ノスリ *Buteo buteo*

ハヤブサ科 FALCONIDAE

- 52 チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

クイナ科 RALLIDAE

- 53 ツルクイナ *Gallicrex cinerea* (沖縄県では希少種)
- 54 オオバン *Fulica atra* (沖縄県では希少種)

カモメ科 LARIDAE

- 55 ユリカモメ *Larus ridibundus*
- 56 セグロカモメ *Larus argentatus*
- 57 ウミネコ *Larus crassirostris*

フクロウ科 STRIGIDAE

- 58 コミミズク *Asio flammeus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

- 59アカハラ *Turdus chrysolaus*
- 60シロハラ *Turdus pallidus*
- 61トラツグミ *Turdus dauma*
- 62ウグイス *Cettia diphone*
- 63オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

旅 鳥

サギ科 ARDEIDAE

- 64ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*
- 65アマサギ *Bubulcus ibis*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 66ハチクマ *Pernis apivorus*
- 67アカハラダカ *Accipiter soloensis*
- 68サシバ *Butastur indicus*
- *69ハヤブサ *Falco peregrinus* (環境庁、沖縄県共に危急種。国内希少種)

タマシギ科 ROSTRATULIDAE

- 70タマシギ *Rostratula benghalensis* (沖縄県では希急種)

チドリ科 CHARADRIIDAE

- 71コチドリ *Charadrius dubius*
- 72イカルチドリ *Charadrius placidus*
- 73シロチドリ *Charadrius alexandrinus* (沖縄県では希少種)
- 74メダイチドリ *Charadrius mongolus*
- 75オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*
- 76ムナグロ *Pluvialis dominica*
- 77ダイゼン *Pluvialis squatarola*
- 78ケリ *Microsarcops cinereus*
- *79タゲリ *Vanellus vanellus*

シギ科 SCOLOPACIDAE

- 80キョウジョシギ *Arenaria interpres*

- 81 トウネン *Calidris ruficollis*
 82 ヒバリシギ *Calidris minutilla*
 83 ウズラシギ *Calidris acuminata*
 84 ハマシギ *Calidris alpina*
 85 コオバシギ *Calidris canutus*
 86 オバシギ *Calidris tenuirostris*
 87 ミユウビシギ *Crocethia alba*
 88 ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeus*
 89 エリマキシギ *Philomachus pugnax*
 90 ツルシギ *Tringa erythropus*
 91 アカアシシギ *Tringa totanus* (環境庁、沖縄県共に希少種)
 92 コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*
 93 アオアシシギ *Tringa nebularia*
 94 クサシギ *Tringa ochropus*
 95 タカブシギ *Tringa glareola*
 96 キアシシギ *Tringa brevipes*
 97 イソシギ *Tringa hypoleucos*
 98 ソリハシシギ *Xenus cinereus*
 99 オグロシギ *Limosa limosa*
 100 オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
 101 ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*
 102 ダイシャクシギ *Numenius arquata*
 103 チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
 104 コシャクシギ *Numenius minutus*
 105 ヤマシギ *Scolopax rusticola*
 106 タシギ *Gallinago gallinago*

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

- 107 セイタカシギ *Himantopus himantopus* (環境庁、沖縄県共に希少種)

ヒレアシギ科 PHALAROPODIDAE

- 108 アカエリヒレアシギ *Phalaropus lobatus*

ホトトギス科 CUCULIDAE

109ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE

110ヨタカ *Caprimulgus indicus*

アマツバメ科 APODIDAE

111ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta*

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

112ツバメ *Hirundo rustica*

113リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica* (1995年頃から毎年のように1～2番の繁殖が確認されている。一部夏鳥)

セキレイ科 MOTACILLIDAE

114ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

115キセキレイ *Motacilla cinerea*

116ハクセキレイ *Motacilla alba*

117ビンズイ *Anthus hodgsoni*

118ムネアカタバヒバリ *Anthus cervinus*

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

*119サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (別亜種のリュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* も見られ沖縄県では希少種)

モズ科 LANIIDAE

120モズ *Lanius bucephalus*

121アカモズ *Lanius cristatus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

122アカヒゲ *Erithacus komadori* (環境庁では希少種、沖縄県では危急種。国指定天然記念物。国内希少種)

123ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

- 124 ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*
 125 ノビタキ *Saxicola torquata*
 126 ツグミ *Turdus naumanni* (別亜種のハチジョウツグミ *Turdus naumanni naumanni* も見られる)
 127 キビタキ *Ficedula narcissina* (別亜種のリュウキュウキビタキ *Ficedula narcissina owstoni* も見られ沖縄県では危急種)
 128 エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*
 129 コサメビタキ *Muscicapa latirostris*
 *130 メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

ホウジロ科 EMBERIZIDAE

- 131 アオジ *Emberiza spodocephala*
 *132 クロジ *Emberiza variabilis*

アトリ科 FRINGILLIDAE

- 133 アトリ *Fringilla montifringilla*
 134 カワラヒワ *Carduelis sinica*
 135 シメ *Coccothraustes coccothraustes*

ムクドリ科 STURNIDAE

- 136 コムクドリ *Sturnus philippensis*
 137 ムクドリ *Sturnus cineraceus*

迷 鳥

アホウドリ科 DIOMEDEIDAE

- *138 クロアシアホウドリ *Diomedea nigripes*

ミズナギドリ科 PROCELLARIIDAE

- 139 オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* (沖縄県では希少種)
 *140 アナドリ *Bulweria bulwerii*

ゲンカンドリ科 FREGATIDAE

- 141 コゲンカンドリ *Fregata ariel*

*142オオグンカンドリ *Fregata minor*

サギ科 ARDEIDAE

143カラシラサギ *Egretta europotes*

*144アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

コウノトリ科 CICONIIDAE

145コウノトリ *Ciconia ciconia* (環境庁、沖縄県共に絶滅危惧種。国指定特別天然記念物。国内希少種)

トキ科 THRESKINORNITHIDAE

146クロツラヘラサギ *Platalea minor* (環境庁、沖縄県共に希少種)

*147ヘラサギ *Platalea leucorodia*

ハヤブサ科 FALCONIDAE

148チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

レンカク科 JACANIDAE

149レンカク *Hydrophasianus chirurgus*

ガンカモ科 ANATIDAE

150アカツクシガモ *Tardorna ferruginea*

151ハイイロガン *Anser anser*

カモメ科 LARIDAE

152カモメ *Larus canus*

153オオアジサシ *Sterna bergii* (環境庁、沖縄県共に希少種)

154ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*

155クロハラアジサシ *Sterna hybrida*

156セグロアジサシ *Sterna fuscata* (沖縄県では希少種)

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

157ヤツガシラ *Upupa epops* (沖縄県では希少種)

レンジャク科 BOMBYCILIDAE

- *158キレンジャク *Bombycilla garrulus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

- *159クロツグミ *Turdus cardis*

160ムギマキ *Ficedula mugimaki*

161センダイムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

- *162イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

163オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

164サメビタキ *Muscicapa sibirica*

ホウジロ科 EMBERIZIDAE

- *165シマアオジ

166オオジュリン *Emberiza schoeniclus*

ムクドリ科 STURNIDAE

167カラムクドリ *Sturnus philippensis*

168ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*

謝 辞

本稿の作成にあたっては宮古野鳥の会のサシバ調査資料を使用させてもらった。心から感謝したい。

摘 要

1. 1995年1月から1997年4月までの調査結果と文献資料等から伊良部で記録された鳥類の目録を作った。
2. 42科168種類の鳥を記録した。
3. 面積が小さい割には数多くの水鳥、山野の鳥が記録されている。
4. 地形が複雑に入り組んで渡り鳥にとって最適な中継地である。
5. 今回新たに次の14種を記録した。

ハヤブサ、タゲリ、サンショウクイ、メボソムシクイ、クロジ、クロアジアホウドリ、アナドリ、オオグンカンドリ、アカガシラサギ、ヘラサギ、キレンジャク、クロツグミ、イイジマムシクイ、シマアオジ

6. 伊良部で記録された鳥類168種類のうち17種類が留鳥で151種類が渡り鳥である。
7. サシバの中継地として最適である。宮古諸島へ飛来するサシバの約90%を伊良部が占める。
8. 伊良部は水鳥をメインにした渡り鳥主体の鳥相である。
9. 宮古諸島においては他の地域に比べて珍鳥の多く見られる所である。
10. 開発と緑を残す調和をどうするかが今後の大きな課題である。
11. 伊良部に生息するハシブトガラスの数は約180~200羽である。
12. ホンドイタチが在来の小動物（トカゲ類やヘビ類等）や地上性の鳥（ミフウズラ等）に大きな影響を与えている。
13. 水源地域での水源涵養林、海岸や耕作地周辺の防風林、防潮林の計画的な造林が望まれる。
14. 1996年10月から1997年4月までの調査では冬鳥のシロハラ、ウグイス等が例年に比べて多かった。
15. 年々少なくなっているアカショウビンの伊良部高校での繁殖は興味深い。

参考文献

- 池原貞雄監修 1990 いらぶの自然（動物編）
- いらぶの自然編集委員会 1995 いらぶの自然（植物編）
- 沖縄野鳥研究会 1993 沖縄県の野鳥 沖縄出版
- 久貝勝盛・山本晃 1981 宮古群島の鳥類目録 沖生教研会誌第14号 p p 15~29。
- 久貝勝盛 1990 サシバと伊良部島 いらぶの自然（動物編） p p 216~234。
- 1996 日本におけるサシバの秋の渡り 沖縄県立博物館紀要第22号 p p 153~172。
- 1996 平良市の鳥 平良市自然環境保全基本構想 p p 149~160。
- 1996 下地町与那覇湾一帯の鳥類相 平良市総合博物館紀要第3号 p p 85~103。
- 仲間勇栄 1996 宮古島の地下水と森林環境の保全 平良市自然環境保全基本構想 p p 63~64。
- Wild Bird Society of Japan 1982 A Field Guide to the Birds of Japan.